

台風5号における情報伝達、避難行動等に関するアンケート

集計・まとめ

(平成29年9月25日)

鳥取市老人クラブ連合会 青谷町支部老人クラブ

- ☒ 台風5号 ⇒ 平成29年8月7日夕刻、鳥取市に再接近
- ① 勝部川が、避難判断水位を超えたため、鳥取市は、18時30分に紙屋以南の勝部地域、21時に田原谷～西町地域一帯の勝部川流域、合わせて550世帯1580人に「避難準備・高齢者避難開始」を発令
- ☒ アンケート ⇒ 10日起案、17日定例会長会に提案、実施、9月14日会長会回収締切り
- ☒ 対象クラブ ⇒ 勝部第一寿会、勝部第三寿会、鳴北楽友会、栄町寿栄大クラブ、吉川米寿会、西町寿会、及び、発令の対象地域外になった中郷地区、亀尻喜楽会、露谷寿昌クラブ、

回答数 8クラブ 178人

内訳 住所地域

性別

勝部地区	中郷地区	青谷地区	男性	女性	無回答
48	96	34	80	89	9
27.0%	53.94%	19.1%	44.9%	50.0%	5.1%

年齢

60代	70代	80代	90歳以上	無回答
37	90	39	6	6
20.8%	50.6%	21.9%	3.3%	3.3%

回答の内容

設問の5 → 「高齢者避難開始」が発令されましたが、あなたは避難をされましたか

避難をした 2 (1.6%) 避難しなかった 122 (96.8%) 無回答 2 (1.6%)

※ 避難した2名内訳 (70代2、男1.女1、指定された避難所に2, 防災行政無線: 屋内1, 屋外1)

注) この設問は、亀尻喜楽会、露谷寿昌クラブを除いた集計

設問5の② → 避難しなかった理由

- ① 高齢者避難開始発令を知らなかった 18 (14.8%)
- ② 避難場所を知らなかった 8 (6.6%)
- ③ 一人だったり、遠かったり、行くのが不安だった 13 (10.7%)
- ④ 自宅でも大丈夫と考えた 88 (72.1%)
- ⑤ その他 11 (9.0%)

◆ 避難所に対する不安 (自宅より低地にある。自宅、団地の方が安全) ◆ 避難の必要はないと判断した ◆ 「高齢者避難開始」発令を知らなかった ◆ 「高齢者避難開始」の認識がなかった。
◆ 避難準備情報と思った。準備だけした ◆ 家族と一緒にの方が安心と思った ◆ 中郷まで夜中に行けないと判断した ◆ 仕事・勤務のため行けない ◆ 雨や風の中行くのは無理と考えた

設問の 6 → 防災や避難情報は、主としてどのような方法で得られましたか

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| ① 防災行政無線（屋外スピーカー） | 19 (10.7%) |
| ② 防災行政無線（屋内受信機） | 8 (4.5%) ←集落放送と勘違いのものも？ |
| ③ 市の広報車 | 10 (5.6%) |
| ④ テレビ（NCN、ぴよんぴよん） | 29 (16.3%) |
| ⑤ 電話、携帯電話 | 12 (6.7%) |
| ⑥ ラジオ、一般テレビ | 125 (70.2%) |
| ⑦ スマホ、インターネット | 4 (2.2%) |
| ⑧ その他 | 9 (5.1%) |

※ 集落放送 ※ 区長からの電話 ※ あんしんトリピーメール ※ 県外在住の家族からの連絡
 ※ 翌日の新聞で（台風5号の高齢者避難開始発令について）

設問の 7 → 自分が避難する避難所、一時避難所の場所を知っているか or 知らないか？

- ① 知っている 138 (77.5%) ② 知らない 30 (16.9%) 無回答 10 (5.6%)

設問の 8 → 自分が避難すると想定されている避難所について

- | | |
|------------------|-------------|
| ① 安心していつでも行ける | 49 (30.8%) |
| ② 不安があり、行くのに躊躇する | 110 (69.2%) |

↓ (②の理由)

- | | | | |
|---------|------------|------------|------------|
| ① 場所が不安 | 41 (37.3%) | ② 遠くて不安 | 28 (25.5%) |
| ③ 途中が不安 | 41 (37.3%) | ④ 一人ではいけない | 12 (10.9%) |

設問の 9 → 意見・要望等の自由記入欄への回答

(1) 情報伝達で、「明瞭な音声」が、伝わったかどうかに関する内容のもの

- ① 屋外防災無線スピーカーは聞こえない。役に立たない。窓を開けても、雨、風、川の音で何を言っているのか分からず、不安が増すばかり（アンケートに、屋外スピーカーの聞こえ具合の設問は設けていなかったが、「聞こえない」「役に立たない」の記述は、驚くほど多かった）
- ② 放送の内容が、何を言っているか分からず、川の水位を見に行き、「大丈夫」と自分で判断した
- ③ 防災行政無線で流した情報と同一の内容を、集落放送で再度伝える手立てを講じてほしい
- ④ 各戸とも、屋内用防災無線受信機に統一しなければ、聞こえないという問題は解消しない
- ⑤ 広報車の音声が聞き取れない。ボリュームや口調を調整してほしい
- ⑥ 屋外スピーカー、広報車とも外に出ないと聞こえない。何かが起こってからでは遅い
- ⑦ 避難情報は、自治会長を通じて住民に連絡できるような方策を希望する

※ アンケート回答外の事例 → ①台風5号 ②8月18日午前11時；ミサイル訓練 ③9月10日
 午前10時；津波訓練 → ①②気配なし ③は音声内容が全く不明 ④於：大坪バス停

- 平常時であっても、屋外スピーカーは聞こえない。聞こえても言葉になると内容が分からなくなる。スピーカーからの距離、スピーカーの向き、反響、途中の遮蔽物、風向き、屋内等の条件により聞こえない。逆に、間近で、スピーカーを真正面に向けられた家は、毎日2回、騒音被害を受けている

(2) 情報伝達で、「音声の内容」が、住民の安心や行動に繋がったかどうかに関する内容のもの

- ① 「高齢者避難開始」発令という放送内容で、すぐ避難開始出来る高齢者は、まずいない現状にあると言える。「避難開始」の言葉だけでは、高齢者は動かないし、動けない状況下にある。
- ② 色々な状況にあわせて、伝え方や内容に綿密な計画を持ち、各事象に対応してほしい。
- ③ テレビで台風情報は刻々見ており、その中で、情報の内容がよく分らない防災無線が流れても、身近に大変なことが起こっているかもしれないと、不安ばかりが大きくなる。
- ④ 住民にどう伝わったか点検し、課題の把握、解決の方策等、市は発令後、速やかに検証を行う事が必要である。結果への対策と同時に、内容を公表し、住民の啓発に努めることも重要である。
- ⑤ 自分たちの居住地の危険度が知りたい

(3) 高齢者避難開始に関する内容のもの

- ① 夜間に電話で連絡をいただいたが、高齢者が単独で避難開始するのは不安が大きく困難である。
- ② 家族と一緒に暮らしていても仕事で不在となり、一人で避難しなければならない状態になる。一人での避難は無理であり、どう行動をしたらよいか分からない。教えてください！
- ③ 亀尻集落が避難対象地域指定で、対象外にされたことに理解できない
- ④ 「高齢者避難開始」の発令がいつ出されたのか分からない。テレビでは分からなかった
- ⑤ 高齢者は、家に籠もるしか術がないのだろうか

(4) 設置された避難所に関する内容のもの

- ① 勝部地区住民の避難所が中郷公民館であったが、高齢者の避難や誘導は、特に夜間においてはリスクが大きすぎる（「遠すぎる」「途中が不安」「徒歩で行けるところではない」「不慣れな場所」「利用したことも、足を運んだこともない施設である」）。市の示す「避難10ヶ条」に「避難は徒歩で」とある。夜、風雨の中、勝部川沿いの道路を中郷まで、高齢者（又は、引率者）が徒歩で避難する行動が、住民の安全・安心、命を守る行動とは、とても思えない。
- ② 避難所開設が出来ない地域と決められてしまえば、過疎に拍車をかけることになる。
- ③ 住民と相談し、避難所を設置すべきである。是非、勝部地区に設置してください。
- ④ 避難所に指定されている勝部地区公民館が、その役割や目的を果たせるよう体制を整えることは、緊急の課題である。避難用具・非常食等が、勝部地区公民館に常時備蓄されていても、鍵の管理をはじめ、それらを敏速に活用する人的体制が整っていない。これでは「絵に描いた餅」に過ぎなくなる。市役所本庁危機管理課や青谷総合支所の指導の下、自治会、「まちづくり協議会」、防災連絡協議会等、関係団体・組織、住民が協議、連携して、開設・運営の体制確立を図ることは、勝部地区住民全体にとって緊急の課題になっている。
- ⑤ 洪水の対象になっている勝部川を渡って避難する気にはなれない。
- ⑥ 川に砂や木、アシ、ヨシがいっぱい、洪水の心配がある。取り除いてほしい。一時避難所の公民館が川の側にあり、大雨の度に心配している。

ま と め

「聞き取れない防災行政無線屋外放送が、嵐の中、高齢者を川に行かせている」「高齢者避難開始が、伝わっていない」「情報内容が理解、認識されていない」「高齢者が、安心して避難行動出来る状況になっていない」「避難所について、様々な意見、要望、疑義が潜在している」等、多くの問題点・課題が浮かびあがっています。「このアンケートは、老人クラブではなく、市がすべきだ」の指摘や、「速やかな集計、その結果と分析の公表、及び、防災関係機関に対する提言・要望」を求めるものもあります。

意見から見える課題を以下の通りまとめ、その解決に向けた取り組みを関係機関に要望していきます。また、老人クラブとして取り組める活動を提案していきます。

〔 課 題 、 提 言 、 要 望 〕

◎印は、市、関係機関への要望事項

1、情報の伝達に関する課題

(1) 高齢者にも、よく聞こえる音声で、情報を住民みんなに伝えるための課題

屋外スピーカーが聞こえない、役に立たないという声は、圧倒的に多い

- ◎ 防災行政無線受信機は、各戸に屋内受信機を設置すること。
- ◎ デジタル化工事が未だの市内各地域に、青谷地域の実情を紹介すること。

(2) 高齢者でも「どうすればいいか」が、よく分かる内容にして、情報を住民に伝えるための課題

国が定めた基準に従い「勧告」「指示」等を文字通り・規則通り発令し放送を流されても、高齢者をはじめ住民すべてが、的確に判断し、速やかに避難開始等の対応が出来る状況には、なっていない。

- ◎ 発令は、青谷地域の今の諸状況（民意を含め）を勘案した上で、住民に「どう対応してほしいか」の思いがこめられた内容、住民を導こうという内容にした情報発信に努めること。
 - ◎ 発令の点検や事後検証は必ず実施し、結果は住民にも公表し、啓発活動を図ること。
- #### (3) 町内、集落、近隣等小地域毎における、住民への伝達・連絡体制を確立するための課題
- 集落放送や区長が個々の世帯に伝えている連絡が、住民一人ひとりへの身近な情報伝達で、大きな役割を果たしている。その要望も多い。
- ◎ 小地域内の効率的な伝達・連絡体制づくりに関する施策を講じ、指導を行うこと

2、避難所開設や運営に関する課題

(1) 高齢者でも躊躇する事なく、住民だれもが安心して向かえる避難所開設にするための課題

指定避難場所に対する対象住民の安心と納得は、敏速な避難行動の成否に関わる大切な鍵となっている。だれもが不安なく避難できる場所の選定・設置は、急務となっている。

- ◎ 住民の知恵、行政の「決まり」をあわせ、合意を得るために、各地域毎に協議の場を設けること

(2) 一時避難所、指定緊急避難場所の開設や運営を円滑に進めるための課題

避難所開設や運営に関し、住民組織が参加する体制が不十分な現状にある。（一時避難所も含め）

- ◎ 自助、共助、公助について、各々の努力や善意、ボランティア精神が効率よく噛み合い、円滑で安心・安全な運営が行えるよう、住民や住民組織を含め、市が主導した、検討・協議の場を設けること

[以下の課題は、高齢者の避難が円滑に行われるようにするために、必要と思われる取組み]

3、各種防災に関する研修や訓練の実施に関する課題

(1) 小地域（町内、集落、地区等）毎の各種訓練実施を実現させるための課題

気象情報、防災・避難情報等を理解し、的確な行動を可能とするには、防災避難訓練が一番の早道と考えられる。自主防災組織等と連携、住民の研修会や各種訓練が必要となっている。

- ◎ 市や関係機関は、自治会、町づくり協議会等と連携し、研修や訓練実施に向けた施策を講ずること

(2) 各小地域、グループ毎に実施される防災避難訓練を、指導助言出来る体制を確立するための課題

小地域における研修や訓練は、その地元特有の状況に沿う内容が必要である。

- ◎ 市や関係機関は、総合的な指導を前提にしながらも、地域に指定されている災害危険区域への対応等、その地元が必要としている研修・訓練が実施出来るよう、指導助言者派遣の体制を整えること

4、住民や住民組織の取組みを、積極的にすすめるための課題

(1) 住民一人ひとりの防災意識の向上や、気象・防災情報に対する理解を深めるための課題

「鳥取市が発行、全戸配布の『総合防災マップ』を活用し、気象や防災情報を理解する」「地図でわが家を確認、『わが家の安全対策』を家族で相談、いつ防災情報が発せられても対応出来るように備え、その更新も忘れず続ける」等、住民一人ひとりの自発的な取組みが急がれる状況にあると言える。

- ◎ 市や関係機関は、これら住民の取組みを促し、広めるための施策や啓発活動に力を入れること

- ⊗ 老人クラブとして、研修活動や、会員への広報活動に取り組みます

(2) 自分たちが住む町や集落で、住民互いが防災意識を向上させ、対策の共有を確立させるための課題

各家の「安全対策」の交流・点検や、地域の各種災害指定「危険区域」に、過去の被災記憶を加え、備えや避難行動へ共通理解を深めるため、小地域単位や各組織で研修会や訓練等と、住民の自発的な取組みが必要となっている。地域や各団体のリーダーには、その取組みの中心的役割が期待される。

- ◎ 市や関係機関は、これらの取組みを奨励し、支援する施策を進めること

- ⊗ 老人クラブとして、研修会や各種訓練への協力、会員の参加呼びかけに取り組みます

(3) 災害発生時であっても、支えあい・助け合いでつながる近隣の仲間づくりを進めるための課題

道路の除雪、通学路の確保、清掃活動、総事等、日頃から「支え合い」の関係づくりに努め、どんな災害時であっても「声かけ」「助け合い」「避難所共同生活」等々の、共同行動が速やかに、和やかに出来る、近隣の仲間づくりを進める。

- ◎ 市や各関係機関は、これらの取組みを応援する施策を進めること

- ⊗ 老人クラブとして、会員相互の交流や親睦を深め、奉仕活動への積極的な取組み等、日常のつながりを強め、助けあう活動を進めます

(4) 高齢化の進行する青谷地域にあって、高齢者自身が自らを守るための課題

高齢者自身、災害時、住む地域で、身心の許す範囲で自分に果たせる役割や助け合い行為について整理確認し、日頃より自覚に努めながら、日々を過ごしていく。

また、災害時、自分に必要な支援や手助けの内容を確認し、声を上げて周囲に協力を依頼、支援や協力関係をつくりながら、日常のつながりを大切に、楽しく日々を過ごしていく。

- ◎ 市や関係機関は、避難行動要支援者支援制度の浸透を促進させ、又、運用や普及の妨げとなっている「登録制度」手続き（プライバシー保護が足枷）の見直し等、この制度の実効性を高めること

- ⊗ 老人クラブとして、支援を必要と感じている会員が声をあげやすくなる話し合いの機会をつくる等「支え愛」活動に積極的に取り組みます

台風5号における情報伝達、避難行動等に関するアンケート

鳥取市老連青谷町支部老人クラブ

台風5号では大変心配な状況となり、徹夜で警戒に当たる等お世話をいただいた皆さんに深く感謝いたします。勝部川が避難判断水位を超えたため、市は青谷地域の550世帯1580人に避難準備・高齢者避難開始情報を発令しました。高齢者に避難開始を呼びかけた今回の事態に、情報伝達や避難行動は、実際にはどうだったのか、課題はなかったのか等老人クラブとして検証が必要と考えます。自助・共助・公助がうまくかみ合っていたのか、今後の課題は何かを探るため、アンケートへのご協力を宜しくお願いいたします。

回答方法 [各設問の○数字、①②③・・・の該当する項に、✓印をご記入下さい]

- 1、年 齢 [①60代 ②70代 ③80代 ④90歳以上]
- 2、性 別 [①男性 ②女性]
- 3、住 所 [①勝部地区 ②中郷地区 ③青谷地区]
- 4、あなたが受信している防災行政無線は [①各戸別屋内受信機 ②各集落(町)毎の屋外受信機]
- 5、高齢者避難開始情報が発令されましたが、あなたは避難をされましたか
[①避難をした ②避難しなかった]
5の①の方へ [①指定された避難所に避難 ②それ以外の場所()に避難]
5の②の方へ 避難されなかった理由は
[①高齢者避難開始情報発令を知らなかった(後日、新聞等で知った場合も) ②避難所の場所を知らなかった ③一人だったり、遠かったり等、避難所まで行くのが不安だった ④自宅でも大丈夫だと考えた ⑤その他()]
- 6、今回の台風5号に関する防災や避難情報は、主としてどのような方法で得られましたか(複数回答可)
[①市が各集落に設置している屋外防災行政無線スピーカー ②市が設置している屋内防災行政無線受信機 ③市の広報車 ④ぴよんぴよんテレビ、NCNテレビ ⑤電話・携帯 ⑥ラジオ・一般テレビ ⑦スマホ、インターネット ⑧その他()]
- 7、市が指定している各地域に開設する、自分が避難する避難所・一時避難所について、その場所を
[①知っている ②知らない]
- 8、自分が避難すると想定されている避難所について
[①安心して、何時でも行ける ②不安があり、行くことに躊躇する]
⇒ ②と回答の方へ [①場所が不安 ②遠くて不安 ③途中が不安 ④一人では行けない]
- 9、今回の経験から、老人クラブの仲間等身近な者で出来ること、消防団等地元の方にお世話をお願いしたいこと、市や県に要望したいこと等を、自由にご記入下さい(裏面利用でも可)

ご協力ありがとうございました。